



右◇暖炉廻り ラウンド窓に包み込まれた暖炉廻りは、愛犬「ココ」ちゃんもゆったりと寛げる空間に仕上がりました。
左ページ◇リビング 緩やかなカーブを描くスキップフロアとアーチの曲線が空間に優しさと楽しさを演出します。

一棟の家を建てるために
費やした時間や資金、労力や想い……
そのすべての過程が懐かしく、愛しく思える。
遂に、家が完成したとき主は
性格までもが変わるような至福を味わう、と言う。
自分たちの夢と期待と願いのすべてを
家を創ることで昇華させた結果
今なお、身近な気づきと変化が続いている。
家はその主の人生をも変える。

風水住宅を訪ねて

兵庫県宝塚市 I 様邸

関西有数の高級住宅地に建ち、阪神間の夜景を一望できるその場所は
家族の健康と更なる成功を祈願した、自らが探し求めた理想の住処となった。

風水インタビュー

FENG-SHUI Interview

Q2 『風水住宅』に実際に住まわれるまでに、どのような変化や体験がありましたか……。

数年間『風水』の勉強を続けてきて、また、『密教』のことも併せて学んでいくうちに、「自分らしく生きていきたい」、「家族全員が健やかに仲良く暮らしていきたい」、「仕事上でも、もう少し成功を得てみたい」などといった願望というか欲のようなものが、徐々に私の心の中で膨らんできました。

既に40歳を過ぎていましたし、今からローンを組み直す怖さや住んでいたマンションもまだ5〜6年の期間だったので躊躇もありました。でも、「時期は、今しかない」と思い、家を創ることを決心しました。

松永先生がよく言われる「行動しなければ何も変わらない」という言葉に背中を押されたのでしょね…。

それからは、いよいよ土地探しが始まりました。阪神間で、それなりに起伏があつて、眺望が良く、無条件宅地…『風水』の勉強と仕事上の知識や情報が役に立ち、「こーだー」という場所が見つかりました。自分たちの資金でも手に入りそうな宅地で、それなりに倍率も高かったのですが、何か当たりそうな気がして…。そこまでくるのに約1年の月日が経っていましたが、あつと言つたことでした。宝塚という場所には何の縁もなかったし、子供がちょうど中学受験を控えており、通学には随分と不便になることもわかっていたのですが、家族皆で覚悟して、その場所に決めました。

子供が卒業するのを待つて着工することにしたのですが、直接引越しをするには方角が良くないということで、家が完成するまでの間、仮住まいをし、その後引越しをするという複雑な経緯を辿ることになりました。この際、もう徹底的に拘つて家を完成させようという気持ちで家族全員の中にあつたのだと思います。

その仮住まい生活で、子供は電車通学のための練習ができ、私たち夫婦は古い家具や調度品を見直す機会を得ることもできました。結局、仮住まいを出るときには、すべての家具を他人に譲るようなことになり、その分、余計なお金もかかり苦労もしました。でも、その経験があつたおかげで、家族全員がとても遅くなく、結末や絆といった目に見えない何か、なお一層強くなつていったのだと思つています。



◇外観 外壁のオレンジ色と木々の緑の重なりが、自然味豊かなハーモニーを醸し出します。



◇玄関ホール アーチ状の空間の中を通ることで、気持ち自然と丸く優しくなっています。

Q1 『風水住宅』との出会い、建てることになったきっかけとは何だったのでしょうか……。

初めてポートアイランドでのセミナーで松永先生とお会いしたときのインパクトは、忘れられないですね。長髪姿に髭をたくわえて…。しかし、講演を聴き始めていくうちに「なるほどなあ」と感心することの連続で、『風水』に多少なりとも興味があつて参加したのですが、所謂、占いのようなまやかしの理論ではなく、大脳生理学や色彩心理学などアカデミックな論理体系で『風水』を説明される先生に、ぐいぐいと吸い込まれていきましたし、とても安心感を覚えました。

ちょうどマンションを購入したところで、『氣と家』というテーマに惹かれて行つたと記憶しています。その後、先生の話を聞いていくうちに、自分自身の悩みや家族の健康のことなど、思い当たることが幾つもあった、その後、『風水鑑定士養成講座C級』を受講し、真剣に『風水環境科学』の勉強を始め、いくことになりました。

勉強を始めた当初は、家の中に観葉植物を置いたり、机、家具の位置や座る位置などに気をつけたり、まずは学んだことを実践することの楽しさや気づきを感じていました。しかし、もう少し進んだ段階になり、図面を自分でも少し書けるところまで来たとき、びつくりしたことが起こりました…。

家内が娘と寝ていた位置が「絶命」の場所だったので。「これはまずい！」と家内に聞いてみると、めまいが継続的に起こり、本当に体調がどんどん悪くなつていったのです。「何か気が抜かれていく」ような気分を日増しに家内も感じていて、それで慌てて寝室を動かしました。

私は住宅の広告を扱う仕事をしてきたわけですが、このようなことが契機となって、住宅を見ていく基準が大きく変わつていきました。

広告に載っている家は、だいたい既製品が多いですし、探している方も交通の便とか家の周辺にあるお店や学校、病院などのインフラ環境、また、価格やマージン率に注視される場合がほとんどで、私たちの方からもなかなか「風水的には」と説明しづらいです…。それが実態です。

Q3 『風水住宅』に移られて、どのような変化や周りからの反応がありましたか……。

家ができたまでの間、毎週土日は現場に行き、一歩一歩完成していく我が家を見続けることができたのは楽しいことでした。平面から立体へ。やはり実際に出来上がっていくものを見て、新しいアイデアを出したり、修正をお願いしたり…。本当にいろいろな経験や勉強をすることができました。その分、この家には家族全員の「念いと形」が凝縮されているのではないかと感じています。

子供には、長時間の電車通学を強いているのですが、勉強と部活を両立させています。朝起きてくると第一声「お腹すいたあ」でいつも始まり、体調も良いのだと思えますね。家内はお気に入りのパウダールームに入ると長時間その中で過してしまいます。お風呂に入る時間も長くなり、ゆつくりとくつろいでいるようです。家族は全員健康で、何よりもそれが私の喜びであり、『風水』の成果だとも感じています。

この家を訪ねて来られる方たちからは、特に暖炉は「贅沢な空間」と呼ばれていて評判が良い場所です。また、皆さんの滞在時間も長くなりましたしね…。娘の友達遊びに来たときに、「帰りたくなる家だね」と何度も言っていたのを聞いて、思わず微笑んでしまいました。

私自身の変化には目覚ましいものがあります。今は家にいる時間がとても増えましたし、庭いじりが好きにもなりました。仕事柄「住宅のことはプロ」との自覚があつたのですが、「経験してみる」ことと単なる知識の差は歴然としていることを今回、はつきりと気がつかれました。最近では不思議なことに、今まで上手くいかず滞っていた物事が急に流れるようになつてき始めたのです。行動を起こしたことで「流れ」が動き始めたのでしょうか。これからの自分の仕事や将来像がどういう風に変わっていくのか、今はそれがとても楽しみになつてきています。